

# 自主創造

2022年2月21日  
第10号  
校長 根路銘 敢

## 学校教育目標

自ら学び、心豊かに  
たくましく国際社会  
を生きる生徒の育成  
く頭・心・体を鍛える

# 十人十色の学校

1月31日付の沖縄タイムスに掲載されておりました「全国いじめ問題子供サミット」(主催・文科省)に県代表で参加した本校生徒会役員の記事を改めて紹介いたします。

1月31日付の沖縄タイムスに掲載されておりました「全国いじめ問題子供サミット」(主催・文科省)に県代表で参加した本校生徒会役員の記事を改めて紹介いたします。

土田さんは、ゲイの当事者を招いた授業を紹介。「知らないうちに傷付けてしまっているかもしれない。まずは知ることが大切」と訴えた。

当日、一緒にサミットの様子を参観した他の生徒会の皆さんも、グループごとの発表に身を乗り出すような姿勢で視聴し、「いじめをなくす」という意識は、47都道府県同じなんだ」「いじめられている人に少しでも前向きな気持ちになるような声かけをする」などの意見があり、全国の皆さんと共感することができました。本校では、記事にもありますように「総合的な学習の時間」で地域貢献学習や人権教育講演会、SDGsの取り組み

「LGBTQ+ (性的少数者)」の当事者を招いた授業で気付いたことなどを報告、「十人十色の学校づくりをしよう」と呼び掛けた。

発表者は、生徒会長の平良妃夏さん(2年)、副会長の土田海斗さん(2年)と石川祐玖さん(1年)。手作りのポスターを見せながら、いじめ防止につながる真志喜中の四つの活動を説明した。

石川さんは、周辺の8自治会の公民館に「登校」して清掃や草刈りをする活動を挙げ「顔と名前を覚えてもらえれば、学校の外の人にも『助けて』と言える」と発表。動画投稿アプリTikTok(ティックトック)で、いじめられた経験があるという同世代の女の子が「親に話しても聞いてもらえないと思うし、ほんと人間不信になるよ」と語っていた姿が脳裏に

あったという。土田さんは、ゲイの当事者を招いた授業を紹介。「知らないうちに傷付けてしまっているかもしれない。まずは知ることが大切」と訴えた。平良さんは、「笑わせてくれる存在」「一緒にいると素に戻れる」「先生がいない時間にクラス全体をまとめてくれる」など、一人一人の長所を見つけて書き込む「ハッピーカード活動」「グッジョブさん活動」を報告した。

等を行い、支持的風土のある学校・学級づくりを目指し、生徒の自主的・主体的な自治活動を通して、価値観の多様性を尊重し、自分らしく生きることの大切さについて学んできました。また、校則の見直しについても、ジェンダーフリーとする制服の選択の導入や生徒の声を反映できる校則について、生徒会役員を中心に、取り組んでいきます。

さらに、地域生徒会を充実させる為、地域との交流を深め、今後も生徒が主役の魅力ある学校づくりに努めて参ります。

生徒会役員引継ぎ式  
1月25日、生徒会朝会で、生徒会役員引継ぎ式が行われました。前生徒会長の上原健太郎さんの挨拶では、「振り返ってみると、大きな行事はできませんでしたが、毎日、生徒会のメンバーで小さなことをコツコツ取り組んでこれたと思います。いつも心に『君の笑顔が真志喜の太陽』があり、それをどうやって形に実現させるかを執行部のみんなまで考えていました。真志喜レディオや部活のキャ

送られました。新生徒会長の平良妃夏さんからは、「先輩達を作ってくれた話しやすく、考えて行動できるような雰囲気が好きで、私もこういう風になりたいと憧れがあります。なので、それを責任を持って受け継ぎ、44期の生徒会らしく新しい取り組みにも挑戦していきます。」と力強い挨拶があり、生徒会旗が引き継がれました。



## 学校運営協議会 【地域協働学校】

第3回学校運営協議会が、2月10日に本校地域連携室で行われ、今年度の学校の様子や行事の取り組み等を報告し、委員の皆さんからさまざまな助言を頂きました。中でも、校則の見直しについては、制服の選択の導入と生徒の意見が反映される校則の見直しをして欲しい。また、地域生徒会を充実させ、地域連携を今後も推進して欲しい。という声がありました。学校(生徒)への思いが伝わります。今後も宜しくお願いたします。

